

【令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から】

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果分析についてお知らせいたします。

国語・数学については、「概要」と「課題」、「改善の方向」について、理科については、公開問題の領域に偏りがあるため、本校が課題と捉える問題を抽出し、それに対する「改善の方向」を示します。

国語・数学においては、全領域で全国の平均正答率を上回っておりますが、「課題」については、本校として、「さらに伸ばしていきたい点」として挙げさせていただきました。

※全国状況については、文部科学省や札幌市のHPを御覧ください。なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解願います。

【中学校国語】

本校の概要

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

△全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」

△全国平均を上回っている。

「書くこと」

△全国平均を上回っている。

「読むこと」

△全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

➤ 事象や行為を表す言葉を理解すること。

➤ 自分の考えがわかりやすく伝えるように表現を工夫して話すこと。

➤ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。

➤ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

改善の方向

➤ 新しく出会った言葉について調べたことを記録したり、その語句を話や文章の中で使ったりする活動の充実。

➤ スピーチやディベートなどでの話し方に工夫を加えるなど、自らの意図に合わせた効果的発言を促す「話す」活動の充実。

➤ 自分の考えを裏付けるための根拠を明確に示して「書く」活動の充実。

➤ 筆者の考えを支える根拠を捉えつつ、展開のしかたの目的や意図を理解しながら内容を読み取る活動の充実。

記号の意味

(△) 上回っている ↑

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3%

(◆) やや下回っている -3%

← 全国平均正答率に対して

(▼) 下回っている ↓

【中学校数学】

本校の概要

【領域】

「数と式」

△全国平均を上回っている。

「図形」

△全国平均を上回っている。

「関数」

△全国平均を上回っている。

「データの活用」

△全国平均を上回っている。

今回の調査における課題

➤式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。

➤ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみること。

➤1次関数について、変化の割合を基に、 x の増加量と y の増加量をもとめることができるかどうかをみること。

➤相対度数の意味を理解しているかどうかをみること。

改善の方向

➤文字を用いた式を具体的な場面で活用することができる学習活動の充実。

➤平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる学習活動の充実。

➤1次関数の変化の割合の意味を理解し、1次関数について考えようとする学習活動の充実。

➤相対度数の必要性和意味を理解し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる学習活動の充実。

記号の意味

(△) 上回っている ↑

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3%

(◆) やや下回っている -3%

←全国平均正答率に対して

(▼) 下回っている ↓

【中学校理科】

今回の調査における課題

身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定すること。

考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること。

火災における問いで、知識が概念として結び付いてるか、また、加熱に伴う適切な実験器具の操作における問いで、技能が結び付いているか、など、得た知識を行動や他の知識を関連付けること。

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと。



改善の方向

問題解決の課題を設定するために、授業の導入において、本時の課題を与えられるものにするのではなく、生徒が自ら課題をつかみ、自分の言葉で課題を書くなどの学習活動の充実。

観察、実験の結果を分析・解釈する力を育むために、自らが設定した課題から解決までの探究の流れを調整し、考察の妥当性を高めるための追実験の実施などの学習活動の充実。

授業で得た知識を他の知識と関連付けるために、多面的に物事をとらえられるような学びの深化の時間の設定や総合的な学習の活用など教科横断的な知識の結びつきを感じられる学びの振り返り時間の設定などの学習活動の充実。

目に見えない粒子などを質的・実体的な視点で捉え、モデルを使って表現するために、1人1台端末を活用し、原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できることや、粒子分野に関わらず目に見えないものをモデル等で図に書いて表現する習慣化などの学習活動の充実。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 生徒に対する質問紙調査結果から — 八軒中学校の概要 —

1. 肯定的な回答の割合が特に高い、または全国平均と比較して高い回答が見られた質問項目

【生活・行動面】

- 自分にはよいところがあると思いますか。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

【学習面】

- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

2. 肯定的な回答の割合が低い、または全国平均と比較して低い回答が見られた質問項目

- ◇「生活・行動面」「学習面」とも有意に低い結果として表れる質問項目はありませんでした。

3. 結果と今後の取組

- 全体として、安定した学校生活を送っており、適切な自己肯定感や将来に対する希望をもつ生徒が多いです。
- 「いじめはいかなる理由があっても、してはいけないことである」という考えをもち、自他の心を大切にしながら生活している生徒が多いです。
- 協働的な学びの意義を感じながら、主体的に学習に取り組んでいる生徒が多いです。
- 課題探究的な学習を推進するために、自分の考えを表現する活動や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、さらに授業の工夫改善を図っていきます。
- 各教科の授業や学校行事など、様々な教育活動の中で、生徒が互いのよさや可能性を発揮し、認め合える仲間づくりを進めることで、生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに、さらに取り組んでいきます。

※今回の調査で明らかになったものは生徒の一面にすぎませんが、得られた結果を大いに参考にし、学校と家庭が一体となって、学ぶことの意義や価値、学び方についても丁寧に伝えていくことが必要と考えております。今後とも、ご理解とご支援をお願いいたします。